

団体戦における主審・副審のローテーションについて

審判委員会

現在、団体戦では1人の主審が先鋒戦から大将戦までを努めることが通常である。

しかし、特に5人戦など長くなる試合においては1時間近く掛かることもあり、主審への負担は大きくなっていった。

従って、主審と副審を下記の通りローテーションすることで審判員の負担を軽減し、より質の高い審判を行なっていく。

3人戦の場合 1試合、1試合、1試合

5人戦の場合 2試合、2試合、1試合

7人戦の場合 2試合、2試合、2試合、1試合

勝ち抜き戦の場合 2試合ずつ主審を交代する

その他の団体戦の場合は、基本的には2試合ずつ主審を交代する。